

英訳聖書五版にみる迂言的 do の歴史的研究 I

～ 新約聖書マタイによる福音書をコーパスとして～

古 庄 信

Abstract

The aim of this article is to observe the distribution of periphrastic *do* in the five versions of *The English Hexapla*: from the *Tyndale* version to *The Authorised Version (AV)*, and to clarify how the use of *do* changed in these versions.

It is well known that the *AV* has maintained a prominent position, not only in English literature but also as a creditable corpus of early Modern English as worthy as Shakespeare. Compared with the latter, however, the more old-fashioned style in the former has to be noted.

Then can we find in it any modern linguistic characteristics, such as the use of *do* in questions and negative sentences? In most cases, the answer must be “no”. But through a detailed observation of the five versions, we can safely say that the *AV*, which was influenced by former versions such as those of *Cranmer* and *Rheims*, acquired its linguistic feature, at least of the usage of periphrastic *do*.

序

この拙論における主な目的は、初期近代の英訳聖書における迂言的 *do* の分布がどのような状況にあったかを明らかにすることである。そのため Shakespeare(以下 *Sha* と省略)と並び初期近代英語散文資料の重要なコーパスとされている『欽定英訳聖書』(the *Authorised Version*. 1611年出版、以下 *AV* と省略)と、その手本原稿となったといわれる⁽¹⁾ Tyndale 訳聖書(1534年出版、以下 *TY* と省略)とそれ以降の *Cranmer* 版(1539年出版、以下 *CR* と省略)、沙翁自身も愛用したといわれる⁽²⁾ Geneva 版(1557年出版、以下 *GE* と省略)、そしてカトリック教徒の英訳による⁽³⁾ *Rheims* 版(1582年出版、以下 *RH* と省略)の四版における迂言的 *do* の分布を観察し、比較することを試みた。

AV をコーパスとして取り扱う動機としては次のとおりである。前述のとおり、*AV* は

Sha と並んで近代英語の発達に欠かせない重要な影響を与えたことは周知のとおりであるが、両者の英語に関する性格はある部分でかなり異なっている。それは語い数のみならず⁽⁴⁾ 統語論的に見て、特に疑問文や否定文の語順およびその構成要素の一部である迂言的 *do* の使用状況に関して、*AV* の方が *Sha* に比べかなり保守的であることは否定できない。素人目に見れば、それは当然、聖書と芝居の台詞との違いと片づけられるかもしれない。しかし現代英語しか知らぬ人々からみれば、ときとしてまるで“Greek”⁽⁵⁾ である *Sha* の台詞と同じように、当時の英国一般庶民に親しまれ、日常生活の言葉の規範となった⁽⁶⁾ *AV* がなぜそのような保守的性格を保持するに至ったのであろうか。そして迂言的 *do* の使用状況に関して、同時代の *Sha* と比べ何故保守的であるかについて調べようとするならば、単に *AV* のみの観察では不足であろう。そこで、初期近代英語というマクロ的観点でみるならば、ほぼ同年代の *TY* から *AV* までの観察が必要と思われる。

今回は手始めに、他の福音書にも影響を与えた⁽⁷⁾ マタイ福音書の部分のみを対象として調査を試みた。テキストは *AV* については *The Holy Bible: a Reprint of the Edition of 1611*, Oxford/研究社 (1985)⁽⁸⁾、その他の四版については *The English Hexapla*, AMS Press.(1975)⁽⁹⁾ を使用した。また調査の方法としては、文の種類ごとに *do* を使用した形 (*do* タイプ) と使用しない形 (*s* タイプ) に分類しその割合をデータとして分布状況の判断基準とするという従来のやり方を踏襲した。但し、*S* タイプの肯定平叙文については、調査時間のつごうで *AV* における例のみを対象とし、これを他の四版における例として当てはめたため、実際の使用例数と比べ誤差が若干あることを断っておかねばならない。

調査の結果、文の種類によっては *do* の使用状況が、*AV* より80年近く前に作られた *TY* とほとんど変わらないものもあれば、若干ながら頻度が上昇しているものも見られた。しかし全体として *AV* における *do* 使用の活性化の原因と見られるものに、*AV* 直前の *RH* 版の存在が見逃せないように思われる。以下はこれらの五版における迂言的 *do* の分布状況の観察結果と所見である。

1. 疑問文における *do*

1.1. 肯定疑問文における *do*

Table 1.1.

	TY	CR	GE	RH	AV
S-type	6	6	5	6	6
Do-type	1	2	1	4	2
ratio.do/s	14.3%	25.0%	16.7%	40.0%	25.0%
Ellegård	30.3%	44.9%	56.3%	60.3%	69.2%

(表中の S/do-type 欄の数値は用例数、下欄は *do* の割合を示す数値)

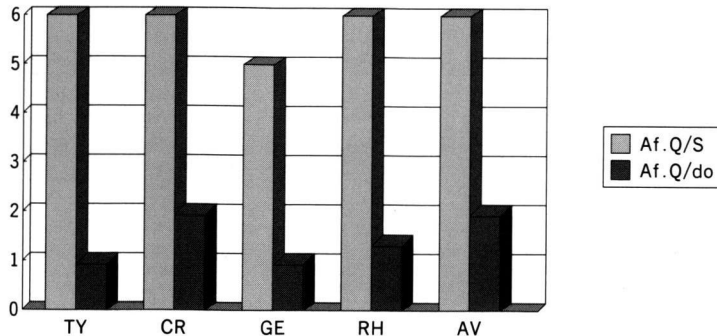
各五版における肯定疑問文中の do の分布は Table 1.1. に示されるように *TY* から *RH* にかけては do の使用率は上昇するが *AV* で再度 *CR* と同率まで下がる、という状況である。これらの数値を Ellegård のデータ⁽¹⁰⁾ と比較するならば、次のとおりである。

即ち、Ellegård では *TY* から *AV* の時期にかけて順調に do 使用率が上昇しているが、特に *GE*, *AV* と Ellegård のずれが著しい。*RH* では40%とかなり成長したにも関わらず、次の *AV* でまた *CR* と同率まで下がったのはいかなる理由であろうか。*RH* における do 使用率の高さは、聖書という内容の保守性からみれば画期的かもしれない。つまりかなり改革的といえよう。カルビン派の強い影響を受けたとされる⁽¹¹⁾ *CR* やカトリック訳の *RH* に対する反動として *GE* や *AV* における s タイプの「揺れ戻し」が生じた、と考えるのは早計であろうか。各版における do タイプの例は次のとおり。(do/s タイプの用例数・箇所は巻末の FS に示す。)

- (1) Do men gaddre grapes of thornes? (*TY. Matthew: 7.16*)
- (2) ...or do we loke for another. (*CR. Matthew: 11.3*)
- (3) Do men gather grapes of thornes? (*GE. Matthew: 7.16*)
- (4) Do you see all these things? (*RH. Matthew: 24.2*)
- (5) ...or doe we looke for another? (*AV. Matthew: 11.3*)

また各版の分布状況について次の Figure 1.1. でみるならば、その推移はより明らかである。*GE* 以前に比べ、*AV* の、若干ではあるが do 使用率の上昇はあたかも *TY*, *GE* の狭間にある *CR* と直前の *RH* の使用率の圧倒的上昇に影響を受けたかのように見える。

Figure 1.1.



1.2. Wh 肯定疑問文における do

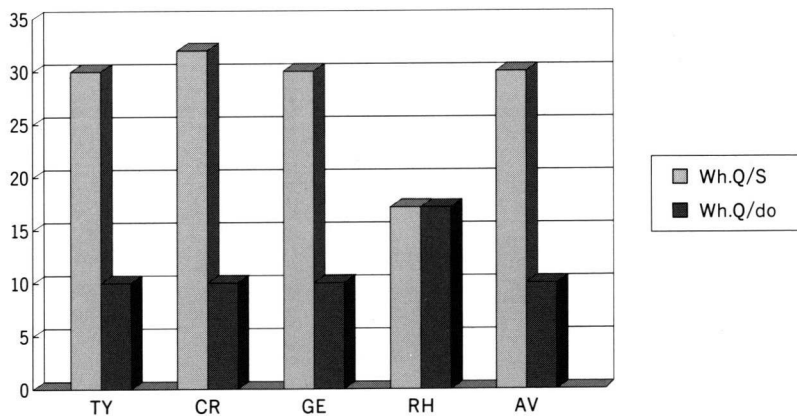
Table 1.2.

	TY	CR	GE	RH	AV
S-type	31	33	31	18	31
Do-type	9	9	9	17	9
ratio.do/s	22.5%	21.4%	22.5%	48.6%	22.5%
Ellegård	19.4%	31.1%	36.8%	40.2%	34.0%

疑問詞を伴う肯定疑問文 (Wh-affirmative questions) における do の分布状況は上の Table 1.2. に見られるとおりである。疑問詞の種類については今回は分類せず、一つのカテゴリーとして扱う。ここでは *TY*、*RH* 以外は Ellegård のデータ⁽¹²⁾ と比べやや低めである。これに対し、*TY* では約3ポイント、*RH* では約8ポイントも Ellegård の平均より do 使用率が高い。逆に *GE* では Ellegård のデータと比べ14ポイントも低く、1.1. の v-question の場合と同じ様相を呈している。また Figure 1.2. で明らかのように *TY* から *AV* への推移は、*RH* 以外はほとんど変化なしであることがわかる。以下は各版における do の使用例である。(do/sタイプの用例数・箇所は巻末の FS に示す。)

- (6) why do we and the Pharises fast ofte: (*TY. Matthew: 9.14*)
- (7) by whose helpe do youre chyl dren cast them out? (*CR. Matthew: 12.27*)
- (8) ...wherfore dyddest thou dout? (*GE. Matthew: 14.31*)
- (9) Why do you also transgresse the commaundment of God...? (*RH. Matthew: 15.3*)
- (10) Whom doe men say, that I the sonne of man, am? (*AV. Matthew: 16.13*)

Figure 1.2.



2. 否定文における do

2.1. 否定疑問文における do

Table 2.1.

	TY	CR	GE	RH	AV
S-type*	5	4	8	3	4
Do-type*	5	5	5	5	6
ratio.do/s*	50.0%	55.6%	38.5%	62.5%	60.0%
Ellegård*	60.7%	75.0%	85.4%	64.8%	93.7%

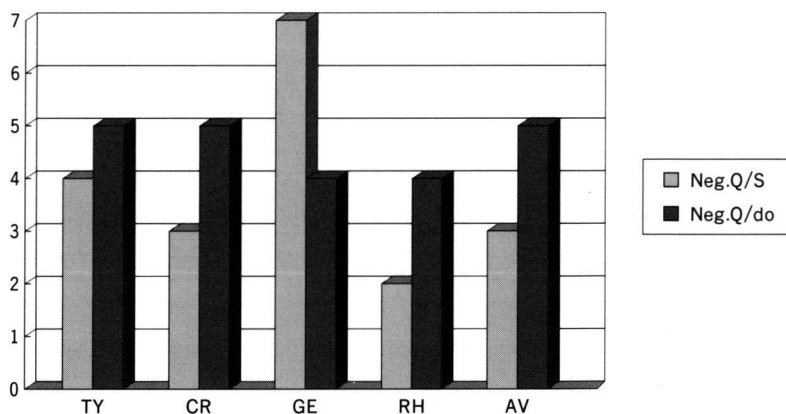
(*ここでは用例数が少ないので各版、Ellegård のデータともに a-question と v-question の合計値 (13)を示す)

否定疑問文においては、全体の用例数が少ないものの、肯定疑問文の場合よりかなり do 使用率が高まっていることが Table 2.1. からわかる。肯定疑問文の場合と同様、GE の異例の低さは別として TY から AV にかけて少しずつではあるが使用率が上昇しているといえるだろう。これも RH の Ellegård とほぼ同じ高さの使用率なくしては見られないといえる。さらに Figure 2.1. においても明らかのように、GE 以外はすべて do タイプの方が s タイプと同等か、より高く比率で用いられている。それだけに AV での使用率の伸び悩みが、AV の保守性の高さを強調している。

疑問詞を伴う否定疑問文 (a-negative question) については、s タイプの例が各版でわずかに 1 例ずつ (Matt.7.3)、do タイプが 2 例ずつ (Matt.21.25, 25.44) と極めて少ないので v-question との合計値で見ている。ちなみに Ellegård のデータにおいても各年代における do の発生数は全体的に少ないようである⁽¹⁴⁾。各版における do の使用例は次のとおり。(do/s タイプの用例数・箇所は巻末の FS に示す。)

- (11) ...dothe he not leve nynty and nyne...? (TY. *Matthew*: 18.12)
- (12) ...: did ye neuer reade in the scriptures The stone...corner: (CR. *Matthew*: 21.42)
- (13) Doth not your master pay tribute? (GE. *Matthew*: 17.24)
- (14) Dydest thou not couenant vvith me for a penie? (RH. *Matthew*: 20.13)
- (15) ..., when saw we..., and did not minister vnto thee? (AV. *Matthew*: 25.44)

Figure 2.1.



2.2. 否定命令文における do

Table 2.2.

	TY	CR	GE	RH	AV
S-type	32	29	31	28	29
Do-type	0	0	0	3	1
ratio.do/s	0%	0%	0%	9.7%	3.3%
Ellegård	0%	0%	9.3%	6.4%	35.3%

Table 2.2. から明らかなように、否定命令文における do の発生そのものが他の文における do よりかなり遅れていることがわかる。これは Ellegård のデータ⁽¹⁵⁾においても同じことがいえる。AV における使用率の低さも肯定疑問文や否定疑問文の場合と同様である。RH に関しては、やがて1割という数字も疑問文に比べるとかなり低いが、それでも Ellegård に比べると進歩的といえよう。また RH の3例や AV の1例は、TY以降の各版のこれらの箇所(巻末の FS 参照)では唯一 RH と AV のみが do タイプを使用しているという意味においては貴重な例といえる(例16、17参照)。RH、AV の各例は次のとおりである。(do/s タイプの用例数・箇所は巻末の FS に示す。)

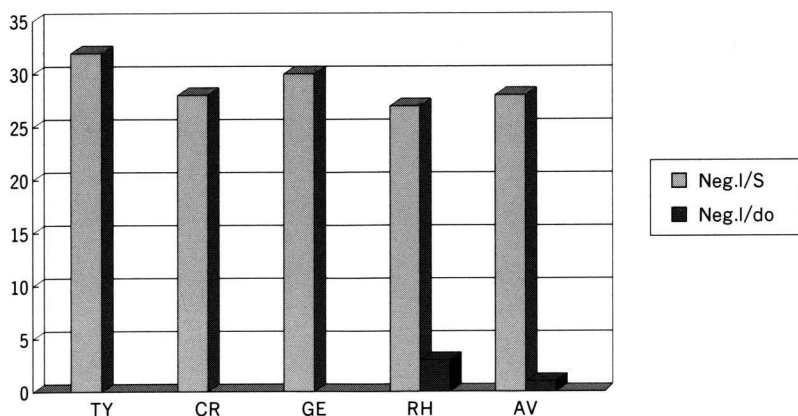
(16) Do not ye thinke that I came to send peace into the earth : (RH. *Matthew* : 10.34)

cf. Thinke not that I am come to send... (TY-AV. *Matthew* : 10.34)

(17) Do not sound a trumpet before thee,... (AV. *Matthew* : 6.2)

cf. ...thou shalt not make a trompet to be blowen... (TY & GE. *Matthew* : 6.2) ...let not trompet be blowen... (CR & RH. *Matthew* : 6.2)

Figure 2.2.



2.3. 否定平叙文における do

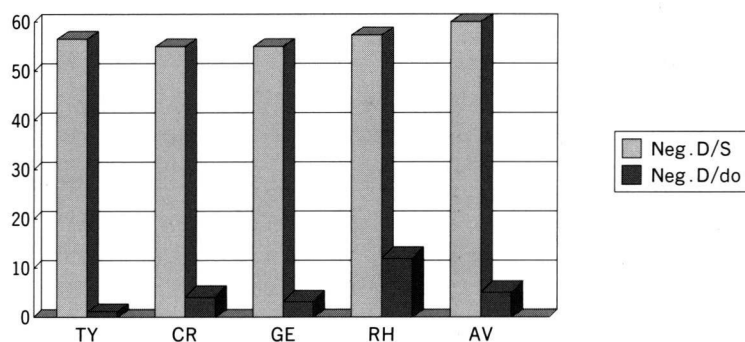
Table 2.3.

	TY	CR	GE	RH	AV
S-type	56	54	54	57	60
Do-type	1	5	3	13	6
ratio.do/s	1.8%	8.5%	5.3%	18.6%	9.1%
Ellegård	13.7%	27.9%	38.0%	23.8%	36.7%

否定平叙文における do の使用率については、Table 2.3. において見られるように、かなり低いことがわかる。また Ellegård のデータ⁽¹⁶⁾ と比べると、これも低いなりに Ellegård と平行するような形で徐々に発生率が伸びていることもわかる。但し AV に至ってその使用率が CR とほぼ同じレベルに下がる、という事実は他の文における do の場合と同様である。CR 以降の各版における do の使用例は次のとおり。(do/s タイプの用例数・箇所は巻末の FS に示す。)

- (18) ..., and where theues do not breake thorow nor steale. (CR. *Matthew*:6.20)
- (19) ...because they seying, do not see: (GE. *Matthew*:13.13)
- (20) ...but eate vvith vvvvashen hands, doeth not defile a man. (RH. *Matthew*:15.20)
- (21) And again hee denied with an oath, I doe not know the man. (AV. *Matthew*:26.72)

Figure 2.3.



3. 肯定平叙文における do

Table 3.

	TY	CR	GE	RH	AV
S-type	*1297	*1297	*1297	*1297	1297
Do-type	12	21	13	23	26
ratio.do/s	0.9%	1.6%	0.9%	1.7%	1.9%
Ellegård	2.6%	8.1%	9.3%	6.3%	2.9%

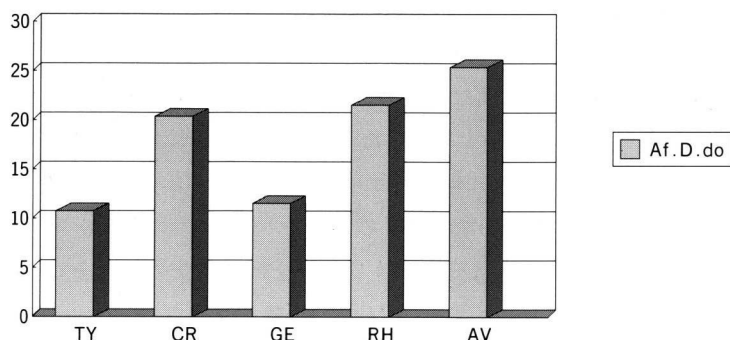
(*n-type の用例数1297は AV における数値で TY・RH では推定値として使用。)

肯定平叙文におけるdoの使用は Table 3. に見るとおりである。他の文における場合とほぼ同様に GE における「揺れ戻し」を経て、わずかではあるが TY から AV へと成長している様子は Figure 3. からわかる。

またこの非強調の do が各版に比べ AV において最も多く用いられていることも AV の do 使用に関するひとつの特徴といえよう。寺澤⁽¹⁷⁾においてもこの点は記されているが、もうひとつ加えるならば、マタイ伝の部分に関する限り、do は肯定平叙文より肯定疑問文や否定疑問文、否定平叙文においてより高い頻度で用いられていることが明らかとなった。各版における代表例は次のとおりである。

- (22) And they dyd all eate, and were suffised. (TY. *Matthew*:14.20)
- (23) ... full well dyd Esaye prophesye of you,... (CR. *Matthew*:15.7)
- (24) And whosoeuer marieth her..., doth commit aduoutry. (GE. *Matthew*:19.9)
- (25) ... for euen thy speache doth bevvrays thee. (RH. *Matthew*:26.73)
- (26) And they ... did run to bring his disciples word. (AV. *Matthew*:28.8)

Figure 3.



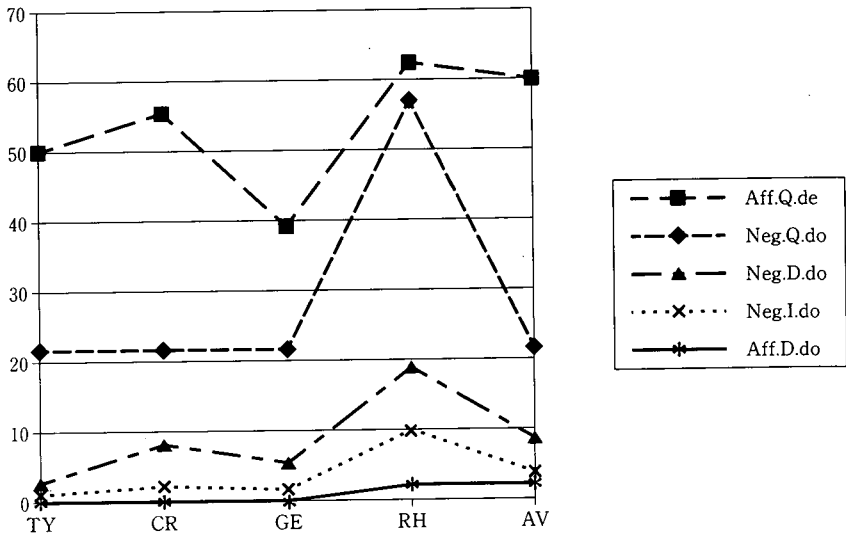
まとめ

これまでの分析結果をまとめるならば次のとおりである。

1. TY から AV に至る各五版の中で do の使用率が最も高かった文の種類は、1) 否定平叙文であり、次に2) 肯定疑問文、3) 否定疑問文、4) 否定命令文、5) 肯定平叙文という順であった。これは Ellegård のデータ⁽¹⁸⁾と比べると、やや各文の優劣が異なる。すなわち、各五版と同時期 (1534~1611) の Ellegård のデータでは、1) 否定疑問文、2) 肯定疑問文、3) 否定平叙文、4) 肯定平叙文、5) 否定命令文(但し 4) と 5) は1600年直前で入れ替わり、4) は衰退の一途を辿る) という順に成長しており、これは *Sha* にも当てはまった⁽¹⁹⁾。しかし、このように do の発生する環境が Ellegård と異なっているという理由からもわかるように、否定疑問文における do の発達が遅れた(あるいは文体上 do を拒んだ?)ことは、AV のみならず各聖書全般にわたる特徴といえよう。
2. 各文における do の分析で明らかになってきたように、TY から AV への do の発達は一直線ではなかった。すなわち、各文で共通して見られた現象として 1) TY から CR への上昇、2) CR から GE にかけての減退、3) GE から RH への再上昇(そして RH におけるピーク状態)、さらに4) AV における再減退現象が見られた。余談ではあるが、この二つのピークから下降という変化は Ellegård のグラフに見られる否定命令文と否定平叙文に顕著な1500年代中盤から1600年代初期の二つの落ち込みに重ならなくもない。それはさておき、極端な見方をすれば、TY (1534) から AV (1611) への約80年間に両者における do の使用状況はほとんど変化しなかった、と見る向きもあろう。しかし1.1.から3.までの各 Table や Figure、そして次の Figure 4. から見てとれるように、TY から AV へは微少ではあるが変化したのである。そしてそれは TY~AV 間の2つのピーク、すなわち

CRとRH、特に後者におけるdoの確実な伸びを経てAVに至ったとするならば、これら二版のdo拡張への影響は否めまい。それでは、なぜRHからAVにかけてはdoがさらに各文において発達しなかったのか？それは繰り返しになるが、文体上AVが最も影響を受けたTYをその手本として編纂された⁽²⁰⁾からではないか。そして不評のGE⁽²¹⁾を上まわるためには、その表現もGE以下では許されなかったであろう。しかしAV編纂30年前のRHではGEとはかなり異なる高い頻度でdoが使用された。しかもRH版はカトリックによる編纂⁽²²⁾であり、国王James Iの命によるAVはそのような影響を簡単に受け入れることによりかなり抵抗があったのではないか。これがRH版の影響を受けつつも⁽²³⁾、AV版におけるdo普及の「揺れ戻し」(あるいは後退化)を引き起こしたのではないか。その結果は、RHほど頻繁にdoは用いないが、その頻度はGEやそれ以前の版より高いものとなった、と考えるのが妥当ではないだろうか。実際、RH版の革新的性格はdoの使用頻度の高さだけでなく、その主語が他の版では“ye”を用いている箇所はほとんどの場合、現代英語と同じ“you”を用いていることから判断できよう。

Figure 4.



3. 各版で do/s タイプの頻度が微妙に異なる理由として、各版の文体の違いがパターン化して見られることが、今回の調査で判明したことのひとつに挙げられる。そのパターンの一部は、次のとおりである。

i) doが RH 版でのみ見られる場合:

- (27) Every tree... that doth not yeld good fruite, shal be cut... (RH
Matthew:3.10)

ii) doが CR, RH, AVの三版でのみ見られる場合:

- (28) after all these thinges do the gentylys seke. (CR.*Matthew*:6.32)
(29) for al these thinges the Heathen do seeke after. (RH.*Matthew*:6.32)
(30) (For after all these things doe the Gentiles seeke:) (AV.*Matthew*:6.32)

iii) doが TY-AV の全五版で見られる場合:

- (31) why do thy disciples transgresse the tradicions of the elders? (TY.
Matthew. 15.2)
(32) Why do thy disciples transgresse the tradition of the elders? (CR.
Matthew. 15.2)
(33) Why do thy Disciples transgresse the tradition of the Elders? (GE.
Matthew. 15.2)
(34) Why do thy Disciples transgresse the tradition of the Auncientes?
(RH.*Matthew*.15.2)
(35) Why do thy disciples transgresse the tradition of the Elders? (AV.
Matthew.15.2)

この様なパターンはその他、すべての版で s タイプが使われる場合や、他の版では do/s タイプいずれかが用いられているのに対し、ある版では異なった表現となっている場合などにも見られる。例えば否定平叙文の "...they repented not..." (TY-AV: 11.20) に対して "...they had not done penance." (RH:11.20) や否定命令文の "I say vnto you, Swear not..." (TY-AV:5.33) に対して "I say to you not to swear..." (RH:5.33) などである。

今回の調査では上述のように、初期近代英語の形成に重要な影響を与えた *Sha* と並ぶ

AVにおいて、助動詞 do が *Sha*とはかなり異なる状況で使用されており、しかしそれも下敷きとなった TY 版と比べると各文において多少なりとも変化、成長していることが確認された。今回の調査対象は「マタイ福音書」のみとしたが、今後もその対象を拡大しつつ、なぜ聖書では、Ellegård のデータ⁽²⁴⁾と異なり、否定疑問文における do が少なく、否定平叙文の do が傑出しているのかという問題について、あるいは前述の do/s 使用のパターンに関する問題などについてさらに追求していきたい。

注

- (1) Nagashima, p.69 参照「AV は、特に新約においては訳文の 8 割から 9 割までが Tyndale に由来する...」
- (2) *ibid.* p.96 参照
- (3) *ibid.* pp.98~100 参照
- (4) McCrum, pp.34~39, "Shakespeare had one of the largest vocabularies... (about 30,000 words)..." "...the Authorized Version contains only about 8,000 words. Shakespeare and the Authorized Version represent the two poles of the English language."
- (5) "... but, for mine own part, it was greek to me." (Julius Caesar 1.2.284)
- (6) Terasawa, p.2 参照
- (7) Nagashima, p.125 参照
- (8) *The Holy Bible: a Reprint of the Edition of 1611*, Oxford/Kenkyusha. (1985)
- (9) *The English Hexapla*, AMS Press, New York. (1975)
- (10) Ellegård, p.161, Table 7. 参照 (但し a-question と v-question の合計値を示す。)
- (11) Nagashima, pp. 82~83 参照
- (12) Ellegård, p.204 参照
- (13) *ibid.*
- (14) Ellegård, p.161, Table 7. 参照
- (15) *ibid.*
- (16) *ibid.*
- (17) Terasawa, p. 33 参照
- (18) Ellegård, p. 161, Table 7. 及び p.162 のグラフ参照
- (19) 拙論 (1990~1995, 1997) 参照
- (20) Nagashima, p. 69 参照
- (21) *ibid.* p.109 参照
- (22) Nagashima, pp.98~100 参照
- (23) Nagashima, p.107 及び Terasawa, p.10 参照
- (24) Ellegård, p.161, Table 7. 及び p.162 のグラフ参照

Frequency Survey of do/s in the Five Versions of the English Hexapla

1. Affirmative questions

1.1. S-type in Affirmative questions

TY	CR	GE	RH	AV
17.24 (pay)	17.24 (pay)	20.16 (hearest)	11.3 (look)	15.12 (knowest)
20.16 (hearest)	20.16 (hearest)	20.23 (doest)	18.1 (thinkest)	20.16 (hearest)
20.23 (doest)	20.23 (doest)	26.53 (thinkest)	20.16 (hearest)	20.23 (doest)
26.53 (thinkest)	26.53 (thinkest)	26.62 (answerest)	20.23 (doest)	26.53 (thinkest)
26.62 (answerest)	26.62 (answerest)	27.13 (hearest)	26.53 (thinkest)	26.62 (answerest)
27.13 (hearest)	27.13 (hearest)		26.62 (answerest)	27.13 (hearest)

1.2. Do-type in Affirmative questions

7.16 (gather)	7.16 (gather) 11.3 (look)	7.16 (gather)	7.16 (gather) 15.12 (know) 24.2 (see) 27.13 (hearest)	7.16 (gather) 11.3 (look)
---------------	------------------------------	---------------	--	------------------------------

1.3. S-type in Wh-questions

5.47 (o.do)	5.46 (o.have)	5.47 (o.do)	5.47 (o.do)	6.28 (a.take)
6.28 (a.care)	5.47 (o.do)	6.28 (a.care)	7.3 (a.seest)	7.3 (a.beholdest)
7.3 (a.seist)	6.28 (a.care)	7.3 (a.seest)	7.4 (a.sayst)	8.29 (o.have)
7.4 (a.sayest)	7.3 (seest)	7.4 (a.sayest)	9.4 (a.think)	9.4 (a.think)
8.29 (o.have)	7.4 (a.sayest)	8.29 (o.have)	11.7 (o.went)	9.11 (a.eateth)
9.4 (a.think)	8.29 (o.have)	9.4 (a.think)	11.8 (o.went)	11.7 (o.went)
9.11 (a.eateth)	9.4 (a.think)	9.11 (a.eateth)	11.9 (o.went)	11.8 (o.went)
11.7 (o.went)	9.11 (a.eateth)	11.7 (o.went)	13.10 (a.speak)	11.9 (o.went)
11.8 (o.went)	11.7 (o.went)	11.8 (o.went)	13.56 (hath)	13.10 (a.speak)
11.9 (o.went)	11.8 (o.went)	11.9 (o.went)	15.34 (o.have)	13.56 (hath)
13.10 (a.speak)	11.9 (o.went)	13.10 (a.speak)	16.13 (o.say)	15.34 (o.have)
13.56 (hath)	13.10 (a.speak)	13.56 (hath)	17.10 (a.say)	16.8 (a.reason)
15.34 (o.have)	13.56 (hath)	15.34 (o.have)	17.25 (o.receive)	16.15 (o.say)
16.15 (o.say)	15.34 (o.have)	16.15 (o.say)	18.12 (a.think)	17.10 (a.say)
17.10 (a.say)	16.8 (a.take)	17.10 (a.say)	19.17 (a.callst)	17.25 (o.think)
17.25 (o.think)	16.15 (o.say)	17.25 (o.think)	20.6 (a.stand)	18.12 (a.think)
18.12 (a.think)	17.10 (a.say)	18.12 (a.think)	21.28 (o.lack)	19.17 (a.callst)
19.17 (a.callst)	17.25 (o.think)	19.17 (a.callst)	20.6 (a.stand)	19.20 (o.lack)
19.20 (o.lack)	18.12 (a.think)	19.20 (o.lack)	21.28 (o.think)	20.6 (a.stand)
20.6 (a.stand)	19.17 (a.callst)	20.6 (a.stand)	22.11 (a.camest)	21.28 (o.think)
21.28 (o.say)	19.20 (o.lack)	21.28 (o.think)	22.17 (a.think)	22.11 (a.camest)
22.11 (a.camest)	20.6 (a.stand)	2.11 (a.camest)	22.18 (a.think)	22.17 (o.think)
22.17 (a.think)	21.28 (o.say)	22.17 (a.think)	22.41 (o.think)	22.18 (a.tempt)
22.18 (a.tempt)	22.11 (a.camest)	22.18 (a.tempt)	25.37 (a.saw)	22.41 (o.think)
22.41 (o.think)	22.17 (a.think)	22.41 (o.think)	25.38 (a.saw)	25.37 (a.saw)
25.37 (a.saw)	22.18 (a.tempt)	25.37 (a.saw)	25.39 (a.saw)	25.38 (a.saw)
25.38 (a.saw)	22.41 (o.think)	25.38 (a.saw)	25.44 (a.saw)	25.39 (a.saw)
25.39 (a.saw)	25.37 (a.saw)	25.39 (a.saw)	25.45 (a.trouble)	25.44 (a.saw)
25.44 (a.saw)	25.38 (a.saw)	25.44 (a.saw)	26.62 (o.think)	25.45 (a.trouble)
25.45 (a.trouble)	25.39 (a.saw)	25.45 (a.trouble)		26.62 (o.think)
26.62 (o.think)	25.44 (a.saw)	26.62 (o.think)		
	25.45 (a.trouble)			
	26.62 (o.think)			

() 内の a., o. は各々 a-question o-question を示す。

1.4. Do-type in Wh-questions

TY	CR	GE	RH	AV
9.14 (a.fast) 12.27 (o.cast) 14.31 (a.doubt) 15.2 (a.transgress) 15.3 (a.transgress) 16.13 (o.say) 17.25 (o.take) 19.7 (a.command) 22.43 (a.call)	9.14 (a.fast) 12.27 (o.cast) 14.31 (a.doubt) 15.2 (a.transgress) 15.3 (a.transgress) 16.13 (o.say) 17.25 (o.take) 19.7 (a.command) 22.43 (a.call)	9.14 (a.fast) 12.27 (o.cast) 14.31 (a.doubt) 15.2 (a.transgress) 15.3 (a.transgress) 16.13 (o.say) 17.25 (o.take) 19.7 (a.command) 22.43 (a.call)	9.11 (a. eat) 9.14 (a.fast) 9.14b (a.fast) 12.27 (o.cast) 14.31 (a.doubt) 15.2 (a.transgress) 15.3 (a.transgress) 16.8 (think) 16.15 (o.say) 19.7 (a.command) 22.18 (o.tempt) 22.43 (a.call) 25.37 (a.see) 25.38 (a.see) 25.39 (a.see) 25.44 (a.see) 25.45 (a.molest)	9.14 (a.fast) 12.27 (o.cast) 14.31 (a.doubt) 15.2 (a.transgress) 15.3 (a.transgress) 16.13 (o.say) 17.25 (o.take) 19.7 (a.command) 22.43 (a.call)

2. Negative Questions

2.1. S-type in Negative questions

5.46 (do) 5.47 (do) 9.14 (a.fast) 16.11 (a.perciev)	5.46 (do) 5.47 (do) 9.14 (a.fast)	5.46 (do) 5.47 (do) 9.14 (a.fast) 15.12 (perceive) 15.17 (perceive) 16.11 (perceive) 21.42 (read)	5.46 (do) 5.47 (do)	5.46 (do) 5.47 (do) 9.14 (a.fast)
--	---	---	------------------------	---

2.2. Do-type in Negative questions

18.12 (leave) 20.13 (agree) 21.42 (read)	18.12 (leave) 20.13 (agree) 21.42 (read)	17.24 (pay) 10.13 (agree) 18.12 (leave)	17.24 (pay) 18.12 (leave) 20.13 (couenant)	17.24 (pay) 18.12 (leave) 20.13 (agree) 21.42 (read)
--	--	---	--	---

2.3. S-type in Wh-Negative questions

7.3 (perceavest)	7.3 (considerest)	7.3 (perceavest)	7.3 (seest)	7.3 (considerest)
------------------	-------------------	------------------	-------------	-------------------

2.4. Do-type in Wh-Negative questions

21.25 (believe) 25.44 (minister)	21.25 (believe) 25.44 (minister)	21.25 (believe) 25.44 (minister)	21.25 (believe) 25.44 (minister)	21.25 (believe) 25.44 (minister)
-------------------------------------	-------------------------------------	-------------------------------------	-------------------------------------	-------------------------------------

2.5. S-type in Negative Declaratives

TY	CR	GE	RH	AV
1.25 (know)	1.25 (know)	1.25 (know)	1.25 (know)	1.25 (know)
3.10 (bring)	3.10 (bring)	3.10 (bring)	5.42 (turn)	3.10 (bring)
5.42 (turn)	5.42 (turn)	5.42 (turn)	6.1 (do)	5.42 (turn)
6.1 (give)	6.1 (give)	6.1 (give)	6.18 (appear)	6.1 (do)
6.18 (appear)	6.18 (appear)	6.18 (seem)	6.26 (sow)	6.15 (forgive)
6.26 (sow)	6.26 (sow)	6.26 (sow)	6.26 (sow)	6.18 (appear)
6.26 (sow)	6.28 (labour)	6.26 (sow)	6.28 (labour)	6.26 (sow)
6.28 (labour)	7.19 (bring)	6.28 (labour)	7.19 (bring)	6.28 (toile)
7.19 (bring)	7.24 (fall)	7.24 (fall)	7.24 (fall)	7.19 (bring)
7.24 (fall)	7.26 (doth)	7.26 (doth)	7.26 (doth)	7.24 (fall)
7.26 (doth)	8.20 (hath)	8.20 (hath)	8.20 (hath)	7.26 (doth)
8.20 (hath)	9.12 (need)	9.12 (need)	9.12 (need)	8.20 (hath)
9.12 (need)	9.17 (put)	9.17 (put)	9.17 (put)	9.12 (need)
9.17 (put)	10.34 (came)	10.34 (came)	10.34 (came)	9.17 (put)
10.34 (came)	10.38 (taketh)	10.38 (taketh)	10.38 (taketh)	10.34 (came)
10.38 (taketh)	11.20 (repent)	11.20 (repent)	12.24 (casteth)	10.38 (taketh)
11.20 (mend)	12.30 (gather)	12.30 (gather)	12.30 (gather)	11.20 (repent)
12.30 (gather)	13.5 (had)	13.5 (had)	13.5 (had)	12.30 (gather)
13.5 (had)	13.12 (hath)	13.12 (hath)	13.5b (had)	13.5 (had)
13.12 (hath)	13.13 (see)	13.13b (hear)	13.12 (hath)	13.12 (hath)
13.13 (see)	13.13b (hear)	13.19 (understand)	13.13 (see)	13.13 (see)
13.13b (hear)	13.18 (understand)	13.58 (did)	13.13b (hear)	13.13b (hear)
13.19 (understand)	13.58 (did)	15.20 (defileth)	13.19 (understand)	13.19 (understand)
13.58 (did)	15.20 (defileth)	16.11 (spake)	13.21 (hath)	13.21 (hath)
15.20 (defileth)	16.11 (spake)	16.12 (bad)	13.58 (wrought)	13.34 (spake)
16.11 (spake)	16.12 (bad)	16.23 (savour)	16.12 (said)	13.58 (did)
16.12 (bad)	16.23 (savour)	17.12 (knew)	16.23 (savour)	15.20 (defileth)
16.23 (savour)	17.12 (knew)	17.21 (goth)	17.21 (spake)	16.11 (spake)
17.12 (knew)	17.21 (goth)	18.22 (say)	18.22 (say)	16.12 (bad)
17.21 (goth)	18.22 (say)	19.14 (forbid)	18.35 (forgive)	16.23 (savour)
18.22 (say)	18.35 (forgive)	20.22 (wot)	19.14 (forbid)	17.12 (knew)
19.14 (forbid)	19.14 (forbid)	21.30 (went)	20.22 (wot)	17.21 (goth)
20.22 (wot)	20.22 (wot)	21.32 (believe)	21.21 (stagger)	18.22 (say)
21.30 (went)	21.21 (dout)	22.11 (had)	21.30 (went)	18.25 (had)
21.32 (believe)	21.30 (went)	22.11b (hast)	22.11 (had)	18.35 (forgive)
22.11 (had)	21.32 (believe)	22.16 (consider)	23.13 (do)	19.14 (forbid)
22.11b (hast)	22.11 (had)	23.3 (do)	23.13b (suffer)	20.22 (know)
22.16 (consider)	22.16 (regardest)	23.13 (go)	24.39 (knew)	21.21 (doubt)
23.3 (do)	23.3 (do)	23.13b (suffre)	24.42 (know)	21.30 (went)
23.13 (go)	23.13 (go)	24.42 (know)	24.44 (know)	21.32 (believe)
23.13b (suffre)	23.13b (suffre)	24.44 (know)	24.50 (hopeth)	21.32b (repent)
24.42 (know)	24.39 (knew)	24.50 (look)	24.50b (knowth)	22.11 (had)
24.44 (know)	24.42 (know)	25.12 (know)	25.12 (know)	22.16 (regardest)
24.50 (look)	24.44 (know)	25.24 (sowdest)	25.24 (strawed)	23.3 (do)
25.12 (know)	24.50 (look)	25.24 (strawed)	25.26 (sowed)	23.13 (go)
25.24 (sowdest)	25.12 (know)	25.26 (sowed)	25.29 (hath)	23.13b (suffer)
25.24 (strawed)	25.26 (sowed)	25.29 (hath)	25.42 (gave)	24.39 (knew)
25.26 (sowed)	25.29 (hath)	25.43 (lodged)	25.42b (gave)	24.42 (know)
25.29 (hath)	25.43 (took)	25.43b (clothed)	25.43 (took)	24.44 (know)
25.43 (lodged)	25.43b (clothed)	25.43c (visited)	25.43b (covered)	24.50 (look)
25.43b (clothed)	25.43c (visited)	25.45 (did)	25.45 (did)	25.12 (know)
25.43c (visited)	25.45 (did)	26.70 (wot)	26.11 (have)	25.26 (sowed)
25.45 (did)	26.70 (wot)	26.72 (know)	26.60 (found)	25.29 (hath)
26.70 (wot)	26.74 (knew)	26.74 (know)	26.70 (wot)	25.43 (took)
26.72 (know)			26.72 (know)	25.43b (clothed)
26.74 (knew)			26.74 (knew)	25.43c (visited)
			29.22 (know)	25.45 (did)
				26.11 (have)
				26.70 (know)
				26.74 (know)

2.6. Do-type in Negative Declaratives

TY	CR	GE	RH	AV
5.15 (light)	5.16 (light) 6.20 (break) 6.26 (sow) 13.13c (understand) 26.72 (know)	5.16 (light) 6.15 (forgive) 13.13 (see)	3.10 (yield) 5.16 (light) 6.20 (break) 13.13c (understand) 13.34 (speak) 15.20 (defile) 15.32 (have) 17.12 (know) 21.32 (believe) 22.16 (respect) 23.13 (enter) 25.24 (sow) 25.43c (visit)	5.16 (light) 6.20 (break) 6.26 (reap) 12.24 (cast) 13.13c (understand) 26.72 (know)

2.7. S-type in Negative Imperatives

1.20 (fear)	1.20 (fear)	1.20 (fear)	1.20 (fear)	1.20 (fear)
3.9 (think)	3.9 (be)	3.9 (presume)	3.9 (delight)	3.9 (think)
5.17 (think)	5.17 (think)	5.17 (think)	6.2 (sound)	5.17 (think)
5.34 (swear)	5.34 (swear)	5.34 (swear)	6.2 (let)	5.34 (swear)
6.2 (let)	6.2 (let)	6.2 (let)	6.7 (speak)	6.2 (let)
6.7 (bale)	6.7 (bale)	6.7 (bale)	6.8 (be)	6.7 (use)
6.8 (be)	6.8 (be)	6.8 (be)	6.13 (lead)	6.8 (be)
6.13 (lead)	6.13 (lead)	6.13 (lead)	6.16 (be)	6.13 (lead)
6.16 (be)	6.16 (be)	6.16 (loke)	6.19 (heap)	6.16 (be)
6.19 (gather)	6.19 (lay)	6.19 (gather)	7.1 (judge)	6.19 (lay)
7.1 (judge)	7.1 (judge)	7.1 (judge)	7.6 (give)	7.1 (judge)
7.6 (give)	7.6 (give)	7.6 (give)	10.5 (go)	7.6 (give)
10.5 (go)	10.5 (go)	10.5 (go)	10.5b (enter)	10.5 (go)
10.5b (enter)	10.5b (enter)	10.5b (enter)	10.26 (fear)	10.5b (enter)
10.26 (fear)	10.26 (fear)	10.26 (fear)	10.28 (fear)	10.26 (fear)
10.28 (fear)	10.28 (fear)	10.28 (fear)	10.31 (fear)	10.28 (fear)
10.31 (fear)	10.31 (fear)	10.31 (fear)	14.27 (fear)	10.31 (fear)
10.34 (think)	10.34 (think)	10.34 (think)	17.7 (be)	10.34 (think)
14.27 (be)	14.27 (be)	14.27 (be)	19.6 (let)	14.27 (be)
17.7 (be)	17.7 (be)	17.7 (be)	23.3 (do)	17.7 (be)
19.6 (let)	19.6 (let)	19.6 (let)	23.8 (be)	19.6 (let)
19.18 (kill)	23.3 (do)	19.18 (kill)	24.17 (let)	23.3 (do)
19.18b (break)	23.8 (be)	19.18 (break)	24.18 (let)	23.8 (be)
19.18c (steal)	24.17 (let)	23.8 (be)	24.23 (believe)	24.17 (let)
19.18d (bear)	24.23 (believe)	23.3 (do)	24.26 (go)	24.23 (believe)
23.3 (do)	24.26 (go)	24.17 (let)	24.26b (believe)	24.26 (go)
24.17 (let)	24.26b (believe)	24.23 (believe)	28.5 (fear)	24.26b (believe)
24.23 (believe)	28.5 (fear)	24.26 (go)	28.8 (be)	28.5 (fear)
24.26 (go)	28.8 (be)	24.26b (believe)		28.8 (be)
24.26b (believe)		28.5 (fear)		
28.5 (fear)		28.8 (be)		
28.8 (be)				

2.8. Do-type in Negative Imperatives

			5.17 (think) 10.34 (think) 24.23 (believe)	6.2 (sound)
--	--	--	--	-------------

3. Do-type in Affirmative Declaratives

TY	CR	GE	RH	AV
2.22 (reign)	2.22 (reign)	2.22 (reign)	6.19 (corrupt)	2.22 (reign)
14.20 (eat)	6.19 (corrupt)	14.20 (eat)	6.20 (corrupt)	5.6 (hunger)
14.21 (eat)	6.20 (corrupt)	14.21 (eat)	6.32 (seek)	6.19 (corrupt)
15.37 (eat)	6.32 (seek)	15.37 (eat)	12.4 (eat)	6.20 (corrupt)
16.1 (tempt)	12.4 (eat)	15.38 (eat)	13.44 (hide)	6.32 (seek)
17.2 (shine)	14.20 (eat)	16.1 (tempt)	14.20 (eat)	12.4 (eat)
19.9 (commit)	14.21 (eat)	17.2 (shine)	14.21 (eat)	14.2 (show)
24.38 (eat)	15.7 (prophecy)	19.9 (commit)	14.34 (touch)	14.20 (eat)
26.21 (eat)	15.9 (worship)	24.38 (eat)	15.37 (eat)	14.21 (eat)
27.35 (cast)	15.37 (eat)	26.21 (eat)	15.38 (eat)	15.7 (prophecy)
27.51 (quake)	15.38 (eat)	27.35 (cast)	16.3 (grow)	15.9 (worship)
28.8 (run)	18.10 (behold)	27.51 (quake)	17.2 (shine)	15.37 (eat)
	19.9 (commit)	28.8 (run)	18.10 (behold)	15.38 (eat)
	22.29 (err)		21.32 (believe)	17.2 (shine)
	24.38 (eat)		22.29 (err)	18.10 (behold)
	26.21 (eat)		26.21 (eat)	19.9 (commit)
	26.46 (betray)		26.62 (testify)	22.29 (err)
	26.67 (spit)		26.67 (spit)	24.26b (come)
	27.35 (cast)		26.73 (bewray)	26.21 (eat)
	27.51 (quake)		27.9 (price)	26.46 (betray)
	28.8 (run)		27.14 (marvel)	26.67 (spit)
			27.35 (cast)	27.9 (value)
			27.51 (quake)	27.35 (cast)
				27.51 (quake)
				28.4 (shake)
				28.8 (run)

参考文献

- Araki, K. and Ukaji, M. 1984, *Eigo-shi, IIIA*. Eigogaku-taikei, vol.10 Tokyo: Taishukan.
- Ellegård, A. 1953. *The Auxiliary Do: the Establishment and Regulation of its Use in English*. Gothenburg Studies in English 2. Stockholm: Almqvist & Wiksell.
- McCrum, R./ Cran, W./ MacNeil, R, 1988, *The Story of English*. Macmillan, Tokyo.
- Nagashima, D. 1988, *Eiyaku-Seisho no Rekishi*. Tokyo: Kenkyusha.
- Terasawa, Y. 1985, *Fukkoku-ban, 'Kintei-yaku-Seisho'-Bunkengaku-teki, Shoshi-gaku-teki Kaisetsu*. Tokyo: Kenkyusha.
- The Holy Bible: a Reprint of the Edition of 1611*, Oxford/Kenkyusha. (1985)
- The English Hexapla*, AMS Press, New York. (1975)
- The Holy Bible*. 1961, The Gideons International.
- Seisho* (Bible). 1979, Nihon-Seisho-Kyokai, Tokyo.
- Furusho, M. 1990-1997, *A Historical Study of Periphrastic do in the Works of Shakespeare I-V*, Bulletin of Gakushuin Women's Junior College. No. 28-37

(ふるしょう まこと 国際コミュニケーション学科助教授)